



自分の力量がどれほどか、はたちの青年は日々試している。

火の国阿蘇の
恵みのブランド

然
zen
A s o C i t y

橋本凌さんは平成五年生まれの若者です。

畜産や農業のいろはを教えてくれたのは祖父だった。

成人式を迎える前に、この道を突き進もうと決心しました。

自分さえやる気になれば答はついてくる。

そういう、とてもわかりやすい世界である気がしたから。

早朝めざめたら、まずおよそ三十頭の牛の世話をする。

自分の朝めしはそのあとだ。

手塩にかける、という上等な営みをあらわす語があるけれど、

はたちの若者はすでにそれを体得しています。

牛の世話をし、朝めしを食べたら、つぎは田に出る。

陽が傾くまで働いて、夕方また牛の世話。

中学生のようなその笑顔は、若き日本のちからです。

若き畜産家 橋本 凌

あるがまま、という貴さ。

人と自然が共作する阿蘇。